

---

# 大子町の地域経済循環分析

2018年1月25日

---

# 目次

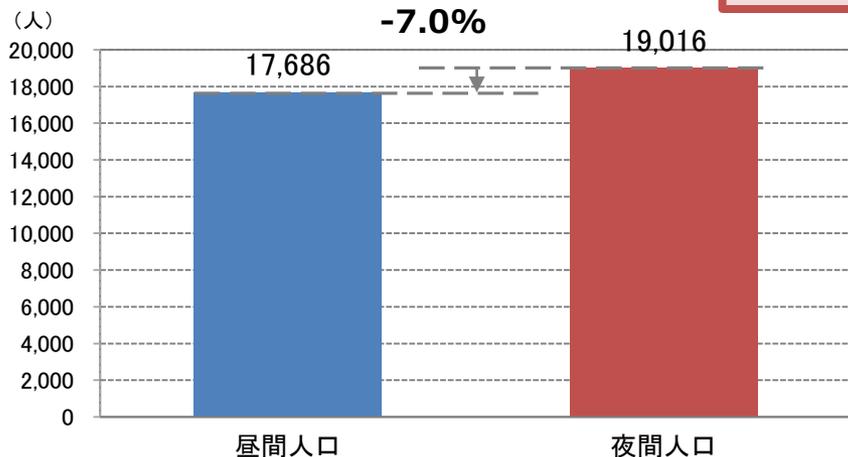
1. 大子町の地域経済循環分析の概要
2. 大子町の課題と取組の方向性

# 1. 大子町の地域経済循環分析の概要

# 地域の概要（大子町）

## ①夜間人口・昼間人口（2013）

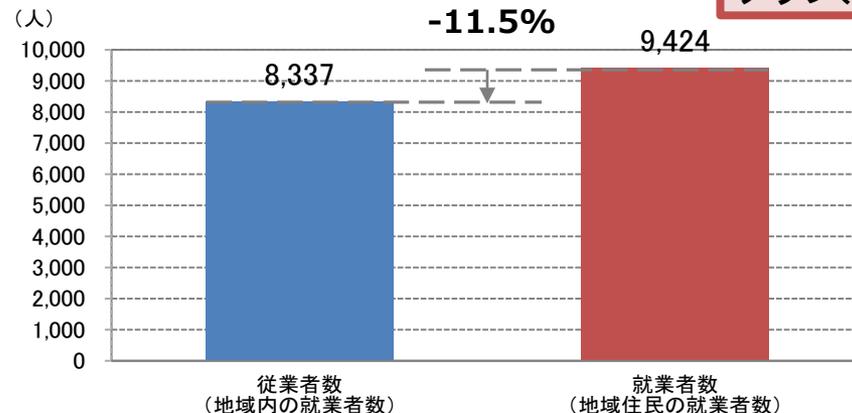
### グラフ(1)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」より作成

## ②就業者数と従業者数（2013）

### グラフ(2)

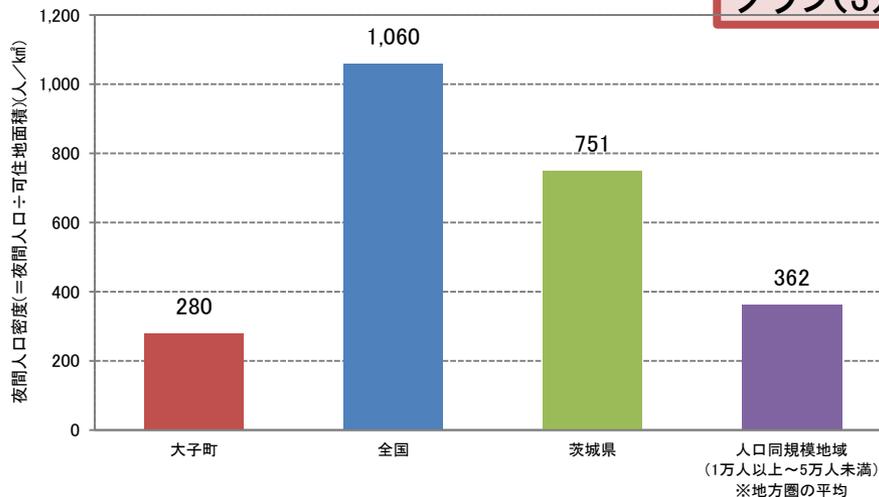


注）従業者数は、従業地における就業者の数（域外からの通勤者を含む）である。  
就業者数は、常住地の住民の就業者の数（域外への通勤者を含む）である。

出所：総務省「平成22年国勢調査」、「平成21年・平成26年経済センサス-基礎調査」より作成

## ③夜間人口密度（＝夜間人口／可住地面積）

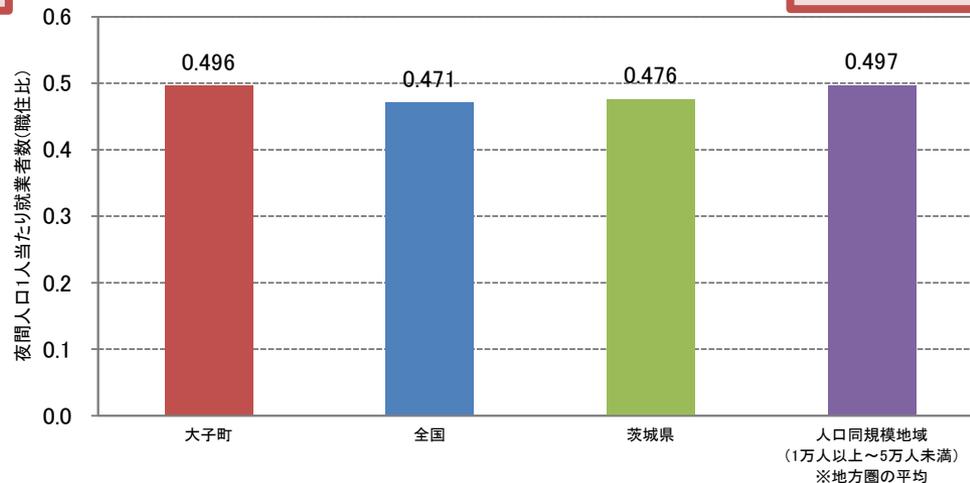
### グラフ(3)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」、「統計でみる市区町村のすがた2012」より作成

## ④夜間人口1人当たり就業者数（職住比）

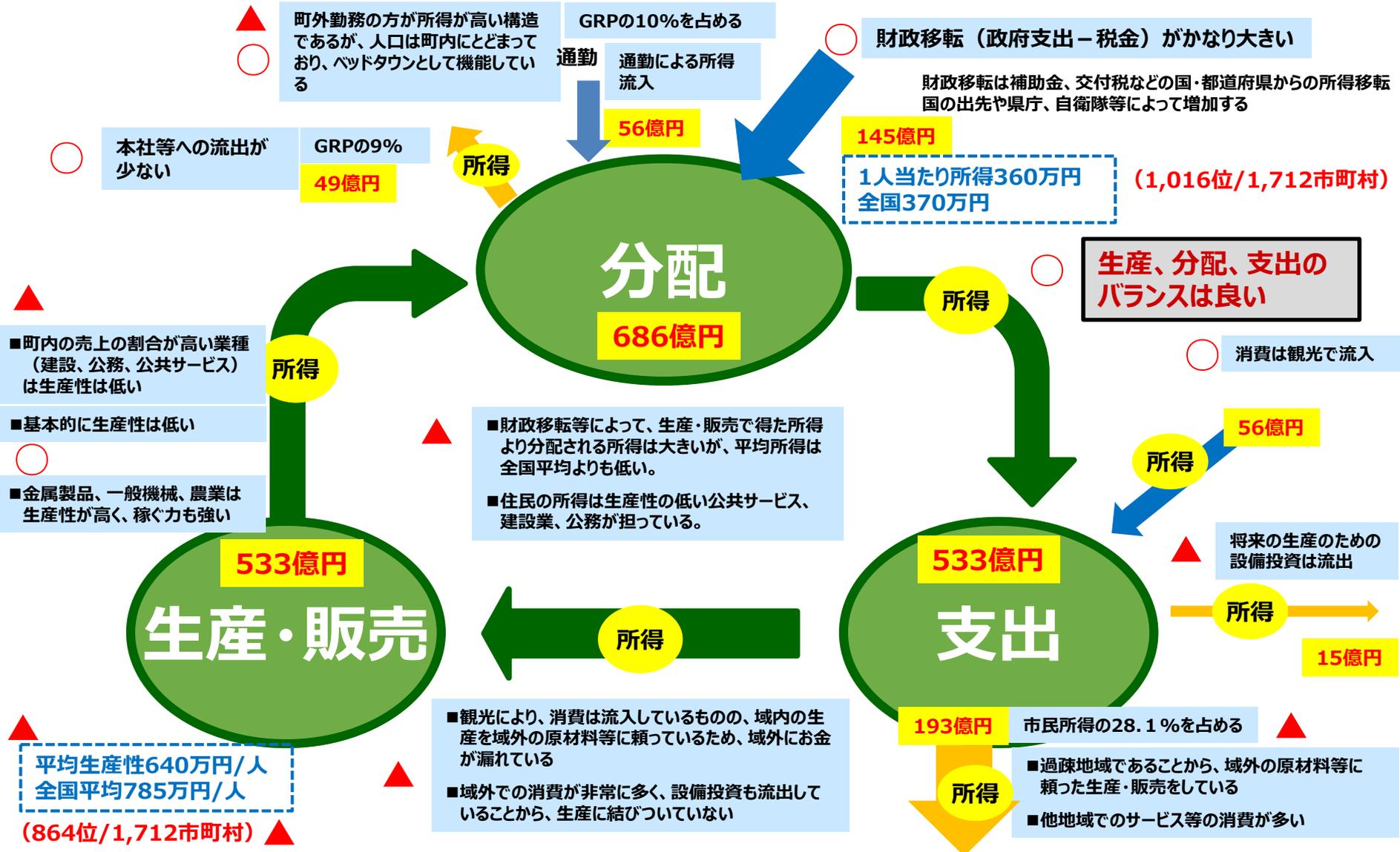
### グラフ(4)



出所：総務省「平成22年国勢調査」、「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」等より作成

# 地域経済循環分析：全体の構造

域外への支出が多く、設備投資、生産に所得が循環していない構造である



# 参考) RESAS地域経済循環分析図

地域経済循環率

**77.8%**

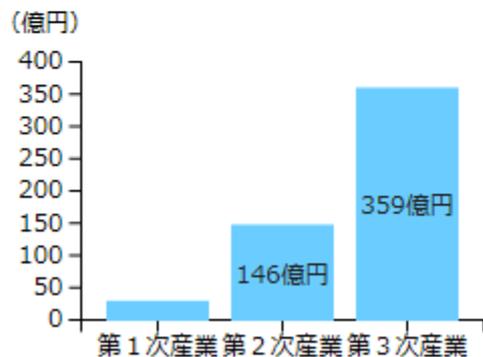
## 地域経済循環図

2013年

指定地域：茨城県大子町

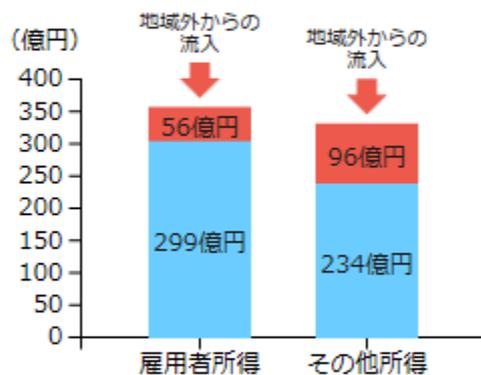
所得への分配  
**533**

### 生産（付加価値額）



詳細を見る

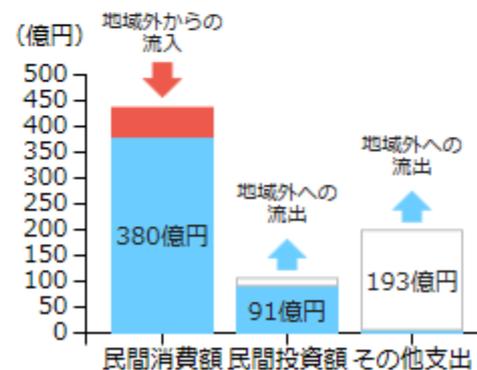
### 分配（所得）



詳細を見る

所得からの支出  
**686**

### 支出



詳細を見る

支出による生産への還流  
**533**

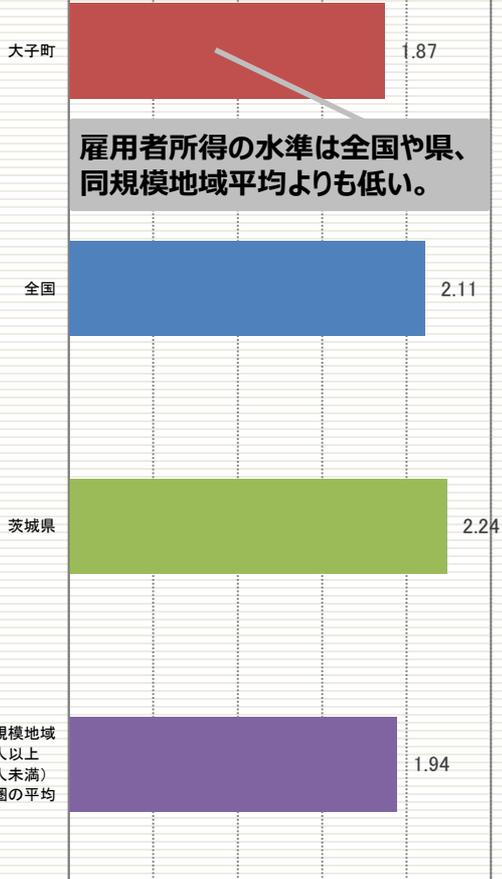
# 住民1人当たり所得（大子町）

## ①夜間人口1人当たり雇用者所得

夜間人口1人当たり雇用者所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0 2.5

グラフ(5)

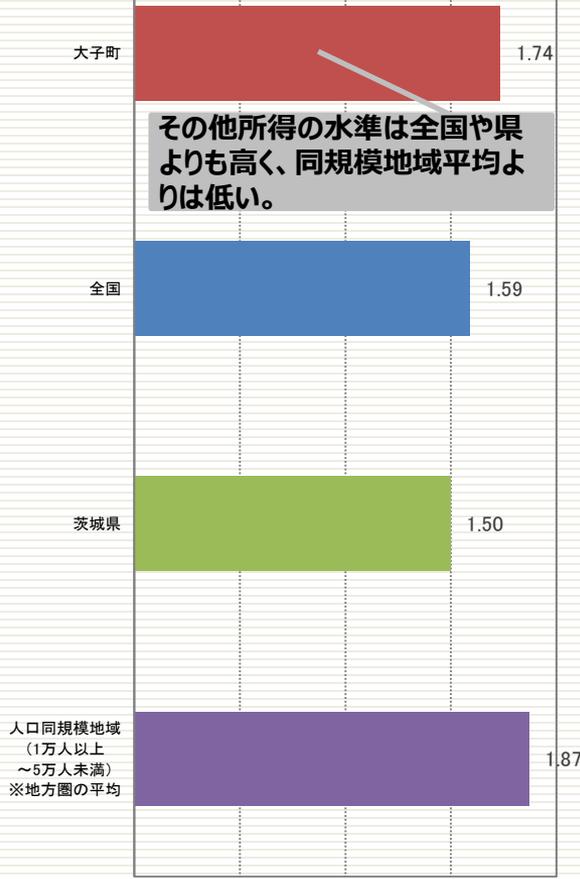


## ②夜間人口1人当たりその他所得

夜間人口1人当たりその他所得(百万円/人)

0.0 0.5 1.0 1.5 2.0

グラフ(6)

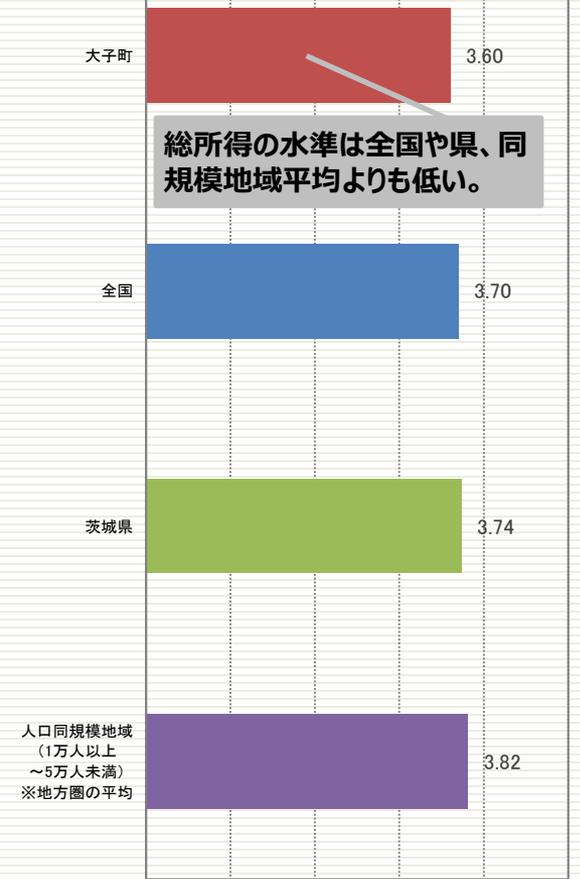


## ③夜間人口1人当たり所得 (=雇用者所得+その他所得)

夜間人口1人当たり所得(百万円/人)

0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0

グラフ(7)



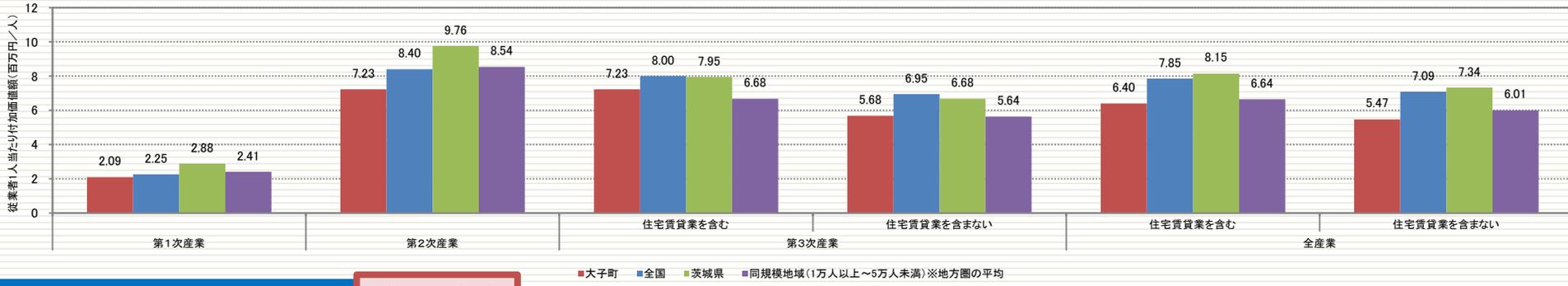
注1) 雇用者所得は、地域内の生産活動によって生み出された付加価値のうち、労働を提供した雇用者への分配額である。

注2) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転（交付税、補助金等）等が含まれる。

# 地域の稼ぐ力 (大子町)

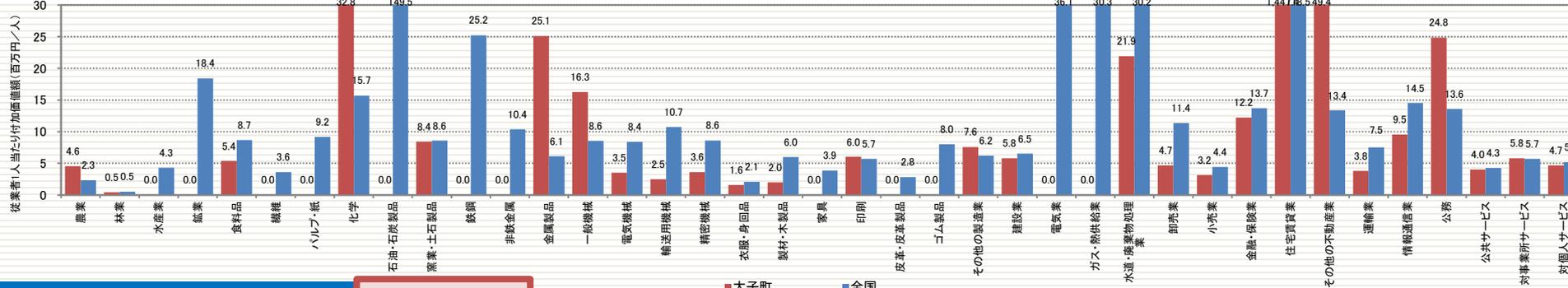
## ① 産業別労働生産性

グラフ(8)



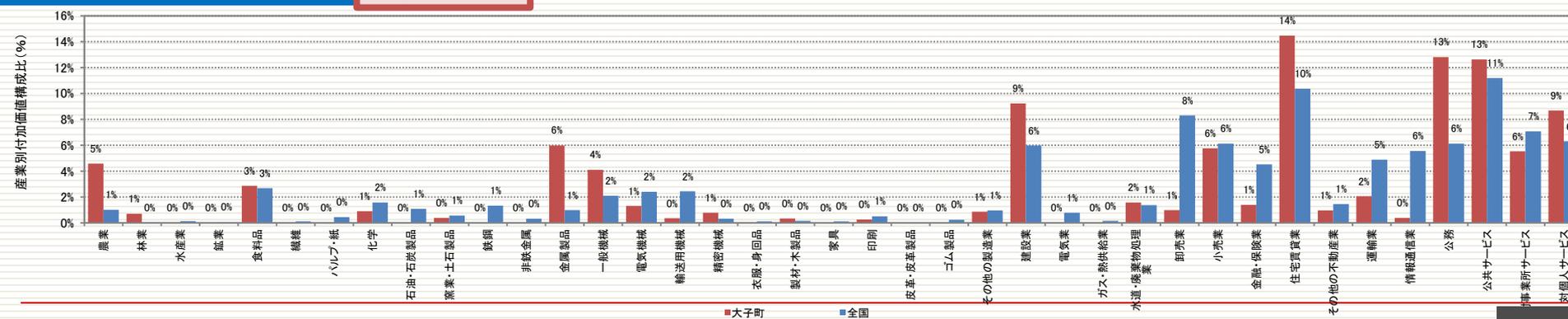
## ② 産業別労働生産性 (39産業)

グラフ(9)



## ③ 産業別付加価値構成比

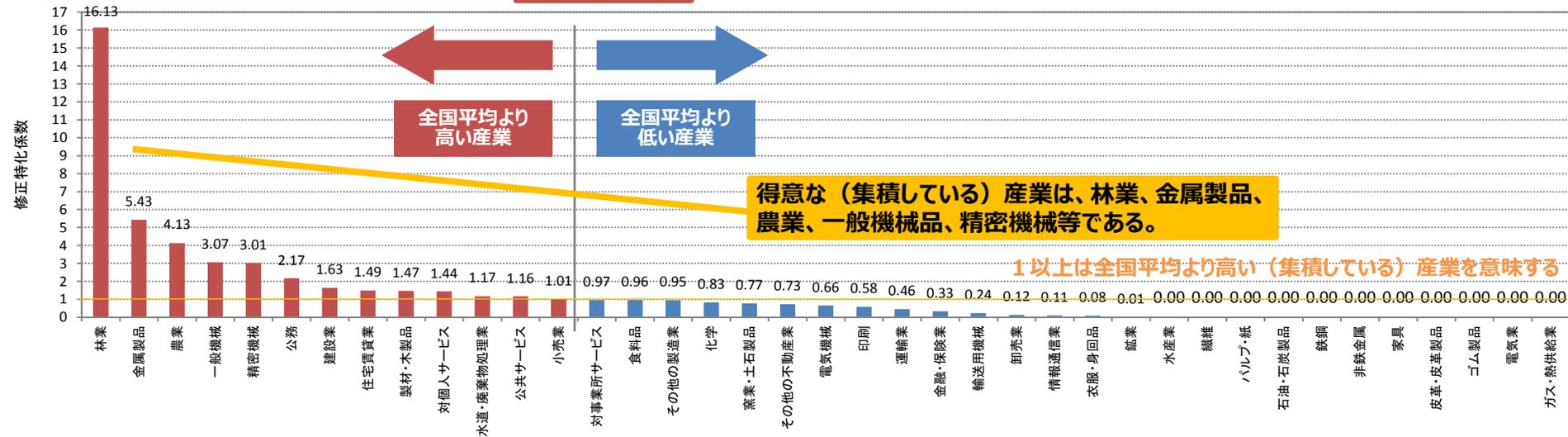
グラフ(10)



# 地域の得意な産業と域外から稼ぐ産業（大子町）

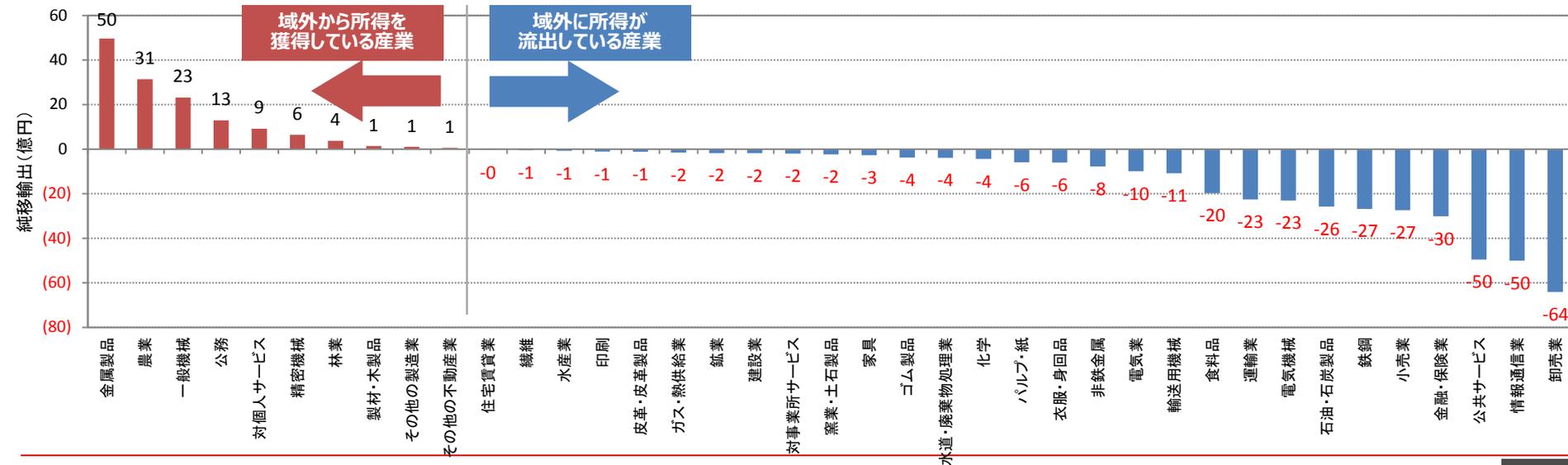
①得意な産業：修正特化係数（生産額ベース）

グラフ(11)



②外から稼ぐ産業：産業別の純移輸出額

グラフ(12)

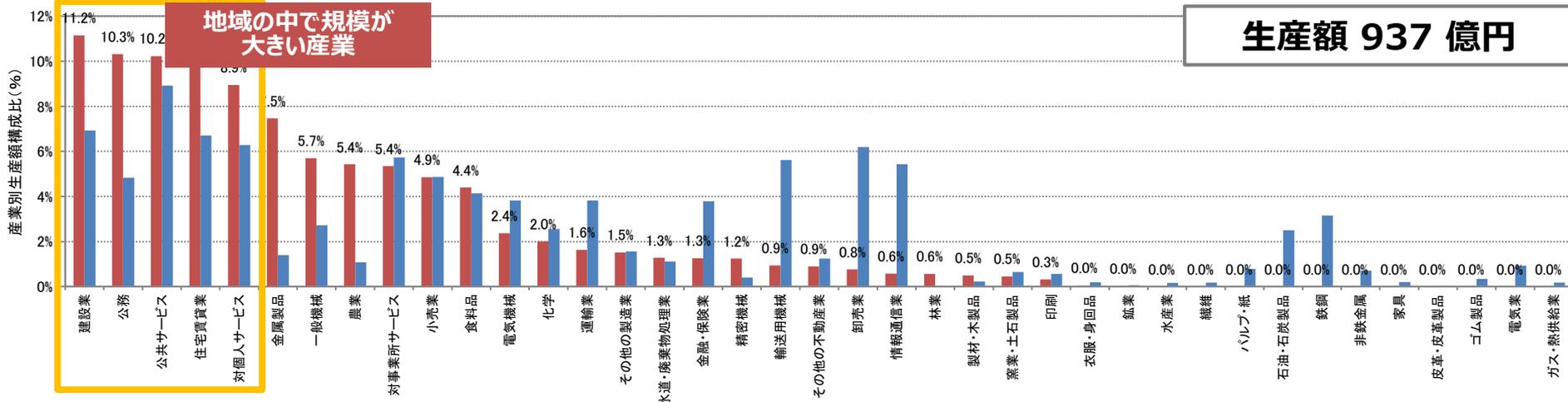




# 産業別の生産額・雇用者所得（大子町）

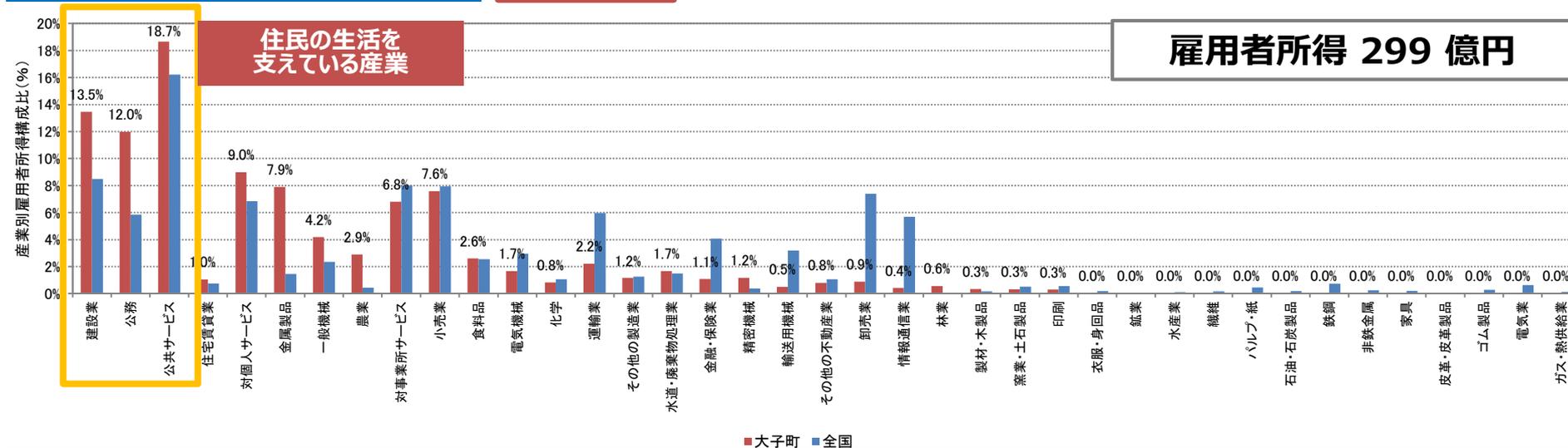
## ① 産業別生産額（売上）

グラフ(14)



## ② 産業別雇用者所得（人件費）

グラフ(15)



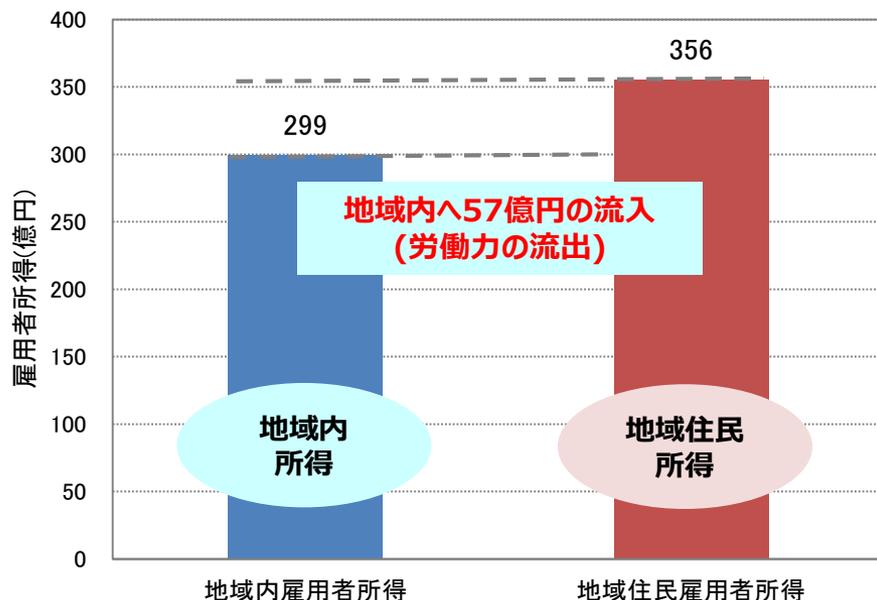
# 地域住民の分配所得（大子町）

- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得た雇用者所得の方が、地域住民が得る所得よりも57億円少なく、地域内へ雇用者所得が流入している。
- ✓ すなわち、労働力が流出することにより、雇用者所得は若干流入している。

- ✓ 地域内で企業が生産・販売で得たその他所得(内部留保、配当等)の方が、地域住民が得るその他所得よりも96億円少なく、地域内へその他所得が流入している。
- ✓ その他所得の49億円（GRPに対し9%）が、本社等へ吸い上げられている。

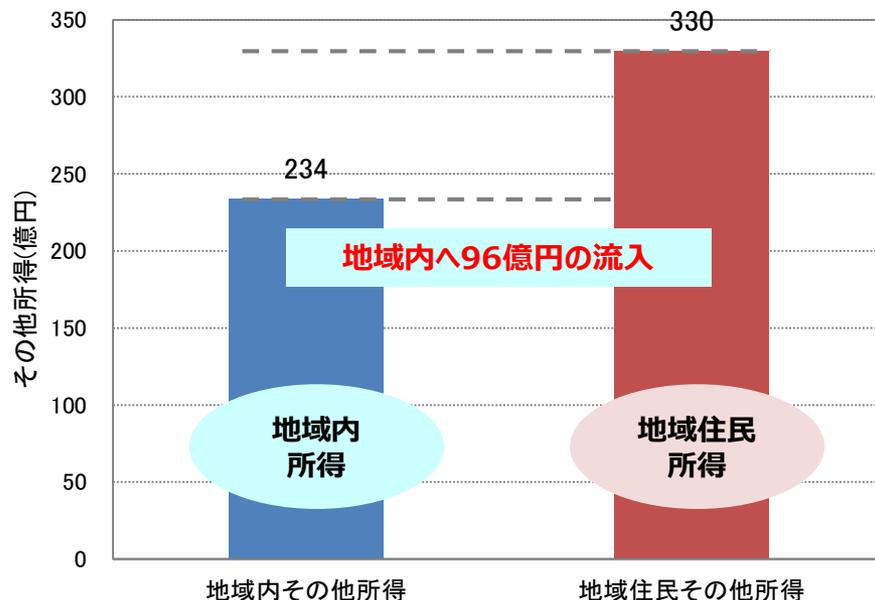
## ① 地域内雇用者所得と地域住民の雇用者所得の比較

グラフ(16)



## ② 地域内その他所得と地域住民その他所得の比較

グラフ(17)



注) その他所得とは雇用者所得以外の所得であり、財産所得、企業所得、財政移転（交付税、補助金等）等が含まれる。

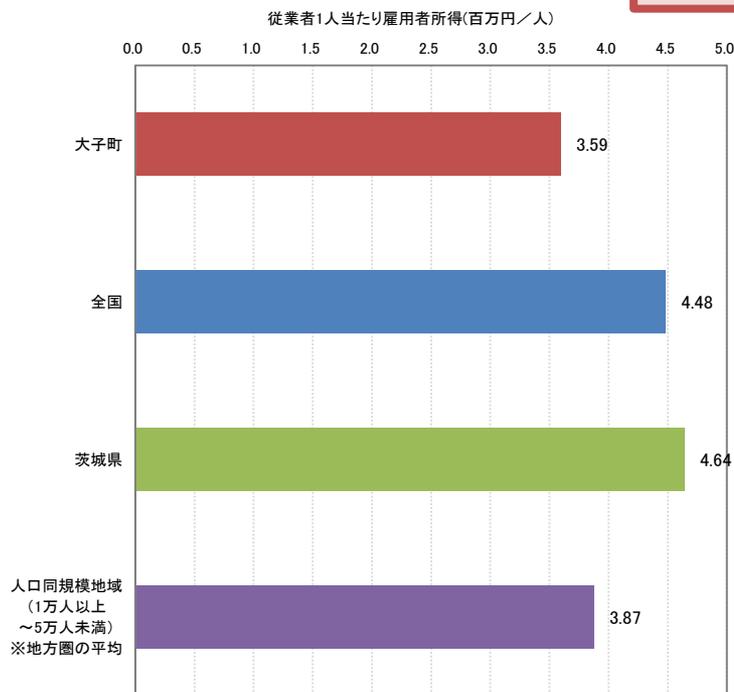
# 1人当たりの雇用者所得の水準（大子町）

- ✓ 従業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ 特に、茨城県と比較すると105万円も小さく、町内で勤務している従業者の雇用者所得が小さいことがわかる。

- ✓ 就業者1人当たりの雇用者所得は全国、県、人口同規模地域と比較して低い水準である。
- ✓ また、従業者1人当たりと比較して、18万円程度大きく、町外の企業・事業所に勤務している町民の方が若干所得が高い。

## ① 従業者1人当たり雇用者所得（従業地ベース）

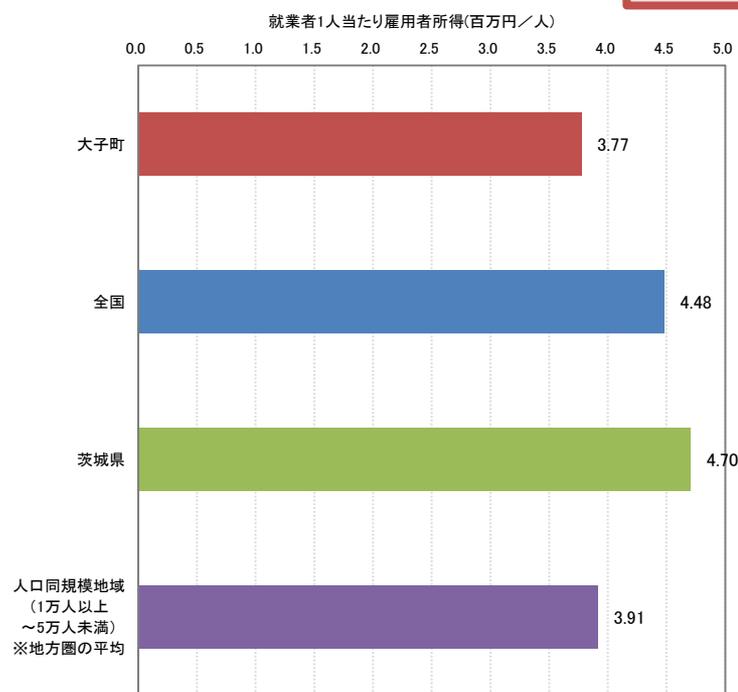
### グラフ(18)



注) 雇用者所得は、地域内（域外からの通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

## ② 就業者1人当たり雇用者所得（居住地ベース）

### グラフ(19)



注) 雇用者所得は、地域住民（域外への通勤者を含む）の雇用者所得を表す。

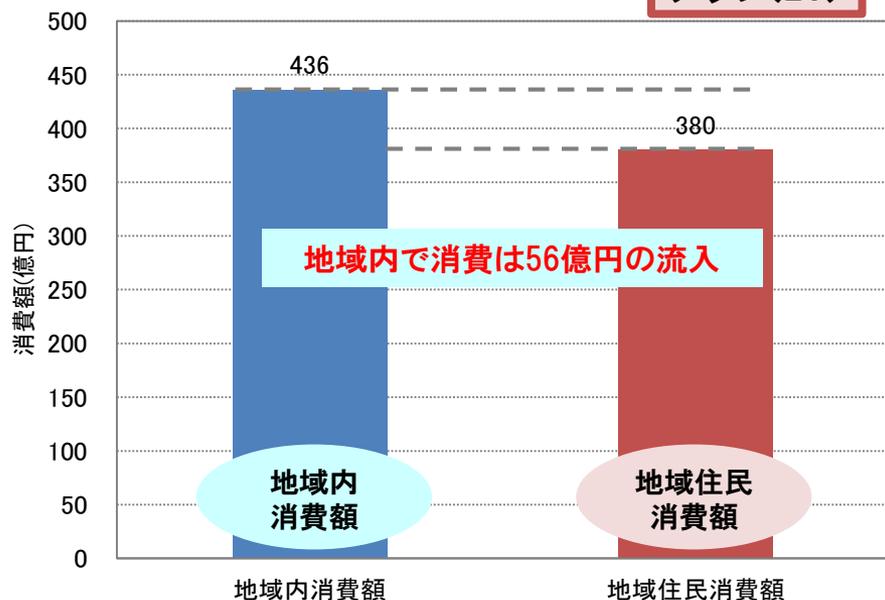
# 消費・投資の流入・流出（大子町）

- ✓ 地域内で消費される額が、地域の住民が消費する額よりも56億円多く、消費が流入している。

- ✓ 地域内に投資される額が、地域内の企業が投資する額よりも15億円程度少なく、地域外に投資が流出している。

## ①消費の流入・流出

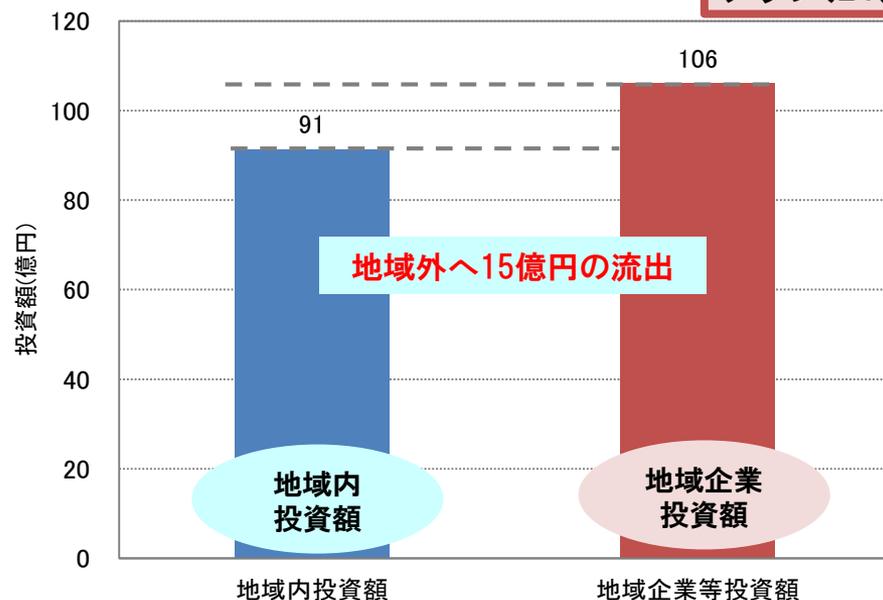
グラフ(20)



注) 地域内消費額は、地域内の民間消費(誰が消費したかは問わない)を表す。  
地域住民消費額は、地域住民の民間消費(どこで消費したかは問わない)を表す。

## ②投資の流入・流出

グラフ(21)



注) 投資額＝民間投資＋民間在庫品増加  
地域内投資額は、地域内の投資額(誰が投資したかは問わない)を表す。  
地域企業投資額は、地域内の企業・住民の投資額(どこに投資したかは問わない)を表す。  
投資額は年次による額の変動が大きい点に留意する必要がある。

---

## 2. 大子町の課題と取組の方向性

# 大子町の長所

**大子町は、金属製品、一般機械、農業等などが強く、労働生産性が高い。**

**①大子町は、金属製品、一般機械、農業等が域外から所得を獲得している。**

- 大子町では、労働生産性が高く、外から稼ぐ力が強い産業として、金属製品業、一般機械業、農業等がある。

**②袋田の滝、温泉などの地域資源があり、観光収入が流入している。**

- 大子町は、袋田の滝、温泉などの地域資源があり、年間多くの観光客が訪れ、観光によって民間消費が流入している。

**③分配される所得について、本社等への流出が少なく、財政移転も多いため、生産で稼ぐ所得より多い。**

- 大子町では、生産・販売で得た所得について、大都市圏の本社等への流出が少ない。
- 補助金、交付金等の財政移転が多いことにより、住民が得る所得は生産で稼ぐ所得より多い。
- 通勤等の流入があることから、ベッドタウンとして機能している。

# 大子町の短所

大子町は労働生産性が上がり、所得水準が低い。設備投資は流出している。

① 大子町は、建設業、公共サービスが中心となっているが、労働生産性は低く、外から稼げない。

- 大子町では、建設業、公共サービス業等が産業の中心となって、多くの所得を稼いでいるが、労働生産性は低く、域外からの移入に頼っている。

② 大子町は533億円の付加価値額を計上しているが、稼ぐ力は弱い。

- 大子町の付加価値額は533億円稼いでいるものの、全産業の1人当たり付加価値額（＝労働生産性）を見ると、全国、県、人口同規模地域と比較して低く、稼ぐ力は弱いと言える。
- これは、第3次産業は、同規模地域より高いが、第1次産業及び第2次産業が全国、県平均、同規模地域より低いためである。

③ 分配は生産で稼ぐ所得より多いものの、所得水準は低い。

- 最終的に住民が得る夜間人口1人当たりその他所得は、人口同規模地域より低いものの、全国平均、県平均より高い。しかし、1人当たり雇用者所得は、全国平均、県平均、人口同規模地域平均より低くなっていることから、1人当たり所得は全国平均、県平均、人口同規模地域平均より低い。
- 大子町での所得が低いことが、町外に出稼ぎに出ている人口が多い要因の一つである。

④ 将来の生産のための設備投資は流出している

- 大子町では15億円の設備投資が流出していることから、地域内の生産に結びついておらず、労働生産性も向上しない。過疎地域であることから、設備投資の需要が無いことも考えられる。

⑤ 大子町の経常収支は赤字となっている。

- 大子町のその他の支出は大量に流出しており、経常収支は赤字となっている。
- これは、大子町の中で規模の大きい建設業や公共サービス等が域外から原材料等を調達しており、域外でのサービスの消費も大きいためである。

# 大子町の今後の取組の方向性

## 中小企業の取引の促進及び観光による消費の流入を活かした施策を展開する。

### ①域外から所得を稼ぐ力の強い農業を中心として、地元企業の取引を促進させる。

- 大子町において「農業」は、域外から所得を稼ぐ力が強いが、域内での取引は多くない。域内では主に「食料品」「パルプ・紙」「対事業所サービス」から原料等を調達しているが、域内生産では「農業」の需要をまかなえていない。
- 「農業」を中心とした取引を活発化させるため、地域の中小企業のクラスター化を図り、販売先と調達先の結びつきを強化する。また、新たな取引を増やすため、地域のネットワーク構築を支援し、企業間のコミュニケーションを取りやすくする。コミュニケーションが増えることで、イノベーション及び新規事業の形成が促進される。域内の取引が活発化すれば、労働生産性も上昇する。
- イノベーション及び新規事業の形成が促進されることで、米やお茶などの特産品を活用する新商品等の生産が増加し、当該商品を観光客等に販売することで、域内の取引の活性化や観光客の増加も見込まれる。

### ②地域内の取引の核となる建設業に域外から稼ぐ力をつける。

- 地域の中で規模が大きく、住民の生活を支える「建設業」は、域内の多くの他産業と取引しているが、域外からの移入に頼った生産をしている。「建設業」は、「製材・木製品」「卸売業」「窯業・土石製品」等から主に原材料等を調達しているが、域内生産では「建設業」の需要をまかなえていない現状である。
- 「建設業」を中心とした産業について、域外からの調達に頼るのではなく、域内企業からの原材料等の調達を現在より行うことで、域内調達率を上昇させる。しかし、域内で生産不可能な原材料等も多く存在するため、町が支援し、原材料を生産する企業の誘致等を行う。誘致の際には、既存の町内の企業を活かし、既存企業の需要が増加する企業を選定する。域内で生産可能な原材料が増えることにより、域外からの移入に頼らない生産を行う。
- 域内の取引が活性化することで、労働生産性が向上し、稼ぐ力を身につける。

# 大子町の今後の取組の方向性

中小企業の取引の促進及び観光による消費の流入を活かした施策を展開する。

## ③袋田の滝等の観光資源が地域内で所得を循環させる。

- 袋田の滝、温泉等の観光資源を生かして、観光ニーズを捉えたおみやげ品の開発製造・販売やサードプレイスの提供を行う。おみやげ品の開発製造・販売やサードプレイスの提供に当たっては、域内の資源を使用することで、域内の企業間取引が増加し、流入する観光消費を域内で循環させる。地域資源を組み合わせた商品の開発製造・販売は、財政移転等を活用して行う。地域資源として挙げられるのは、域外から稼ぐ力の強い「米」や「お茶」である。「米」や「お茶」を活用した商品の販売は、域内での「農業」の取引の活発化につながる。また、おみやげ品やサードプレイスに対する需要が増加すれば、観光客が増加し、町内の宿泊施設等の需要も併せて増加する。宿泊施設等に対する需要が増加することで、「建設業」の需要の増加も見込める。
- 域内で観光消費が循環することで生産性が向上し、設備投資の需要が増加することで、資金面の支援等も増える。資金面の支援が増えることで、観光客に提供するサービスや宿泊施設等が充実し、商店街の活性化を図ることもできる。